



東京地区生コンクリート協同組合
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号
電話番号 (03)3271-2181
URL:https://www.t-namakyō.jp/
発行責任者 高村 尚

＝協組の動き＝

(10月)

11日(月) 理事会(No. 1156)
25日(月) 理事会(No. 1157)

(11月)

8日(月) 理事会(No. 1158)
22日(月) 理事会(No. 1159)

2021年度 上期実績と下期見込(※) (m³)

月	2020年度 実績	2021年度 実績見込	前年比 (%)	年初計画
4	166,709	209,215	125.5	250,000
5	155,954	191,984	123.1	250,000
6	198,597	233,328	117.5	250,000
7	205,708	216,219	105.1	250,000
8	163,255	166,747	102.1	190,000
9	220,110	202,694	92.1	250,000
上期計	1,110,333	1,220,188	109.9	1,440,000
10	218,073	230,000	105.5	260,000
11	183,996	260,000	141.3	260,000
12	199,872	260,000	130.1	260,000
1	171,096	250,000	146.1	220,000
2	190,201	290,000	152.5	280,000
3	223,825	290,000	129.6	280,000
下期計	1,187,064	1,580,000	133.1	1,560,000
年度計	2,297,397	2,800,188	121.9	3,000,000

(※) 2021年度上期実績、下期想定

2021年度上期出荷実績と今後の展望

－出荷状況－

東京協組の2021年度上期出荷実績は、前年比109.9%、年初計画比84.7%の1,220千m³と前年比こそ大きく増加となりましたが、年初計画に対しては大きく割り込みました。

前年比増の背景として、都心部での再開発工事などが着工されたことや新型コロナウイルスの感染拡大で工事の停止・延期の影響を受けて落ち込んだ前年同時期からの反動があると思われます。

しかしながら年初計画に対しては、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などが発出され本格需要に至りませんでした。また、7月末から開催された東京オリンピック・パラリンピックは大きな影響は有りませんでした。予想外に雨天が多く予定の変更やキャンセルが発生し需要が伸びない結果となりました。

9月末の契約残数量は、3,414千m³と高水準にあり10月以降は、都市部での大型再開発工事向け需要も本格化が見込まれ徐々に需要が回復すると思われます。需要家からのヒアリングなどから今後の展開を想定すると、10月の出荷想定は230千m³超となり、2021年3月には、概ね300千m³/月の出荷となると考えられます。しかし年度通期で当初計画数量に到達することは難しいと考え、今年度の出荷予想を3,000千m³から2,800千m³に引き下げました。

5月に実施した調査結果によると、コンクリートミキサ車保有台数は1,610台と前回調査より微減となり、1ヶ月当たりの輸送量は270千m³と8千m³ほど減少しています。運転手不足も未だ解消の見込みはなく、さらに輸送量は低下すると思われ、現場への安定納入が厳しくなることが見込まれます。ダミー出荷予定の取り消し忘れや直前キャンセルは、さらなる輸送量低下に繋がることから、登録販売店に再度の協力をお願いしています。

－市況対策－

2020年4月1日からの新契約案件については、生コンクリート価格1,000円/m³の値上げ満額獲得を目指してきました。近況として需要家には概ね満額のご理解を頂きました。

しかしながら、骨材を含めた原材料費や輸送費の度重なる値上げもあり、原油価格の高騰から燃料費も大きく上昇しています。戻りコン発生がまだまだ減少しないなか、産業廃棄物処理費の大幅上昇も組合員各社の経営を大きく圧迫しています。さらに、高炉スラグ微粉末などを大量に使う環境配慮型コンクリートについては、スラグの性状確認やスランプ管理などコストと手間が増えていることが判明しました。また、スランプロスによる返却が多く、ミキサの洗浄にも時間が掛かっています。現行の一律の割増料金ではコストを吸収できていないため、特殊コンクリートも含め価格体系の見直しも検討していきます。



雑感

高村 尚



－昨年5月の通常総会において専務理事に就任以来、早いもので2年余りを東京協組の運営に携わって参りました。この間に当協組の組合員各社を始め周辺協組や関連先の皆様に諸事お世話になりつつ、「あつという間」に駆け足で時を過ごしてきたように思います。元来が器用な性格ではなく、「有言実行」を心がけて職務に当たってきたつもりではありますが、未だに勝手がわからずに見当違いな対応をしてはいないか、自身を疑いながらの日々を繰り返しております。

さて、就任以来の約2年間、2019年度～2020年度にかけての当協組を取り巻く様々な出来事を振り返りながら、今後の所信を瞑想(迷想)するきっかけとして筆を進めて参りますので、今暫く紙面にお付き合い頂ければ幸いです。

【主な出来事】

1、出荷動向と市況動向

2019年度と2020年度は、当協組創設以来の史上最低水準の出荷量を2年連続で更新。

一方で、価格面では直近過去数年間の複数回に亘る値上げが奏功し、創設以来の史上最高水準の物価版表示価格を更新(「建設物価」2021年4月号で14,500円/m³)。

2、協組各種規約・規程及び契約書類の改定

民法改正等を背景として、諸規約・規程・契約書類を2020年4月1日付けで改定。

(1) 組合員関連(共同販売事業規約、継続的商品売買契約書、商品瑕疵損害補填規程)

(2) 登録販売店関連(登録販売店規程、登録販売店取引基本契約書)

3、新型コロナウイルスの影響

中国湖北省・武漢を発端とする「新型コロナウイルス」の感染拡大により、国内では「緊急事態宣言」が度重なり発出され、当協組の通常総会も2期連続(第44回及び第45回)で書面決議での開催を余儀なくされた。

私事になりますが、昨年4月7日に発出された初回の緊急事態宣言は、胆管結石で4月1日に緊急入院した病院の家族や職場からも隔離された病室で迎えたことが記憶に新しく残っております。

新型コロナウイルスは未だ収束したとは言えない状況ですが、当協組の今後の様々な課題への取り組みに少しでもお役に立てることを考えて参りたいと思います。

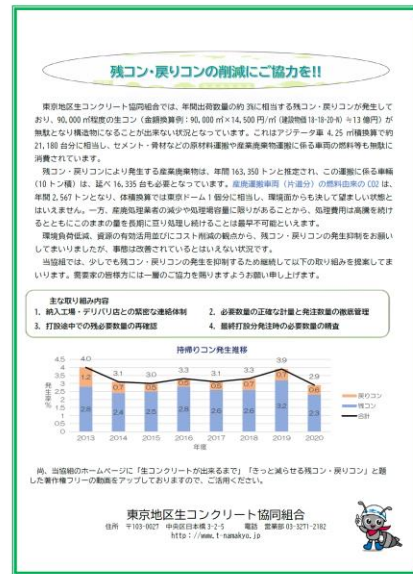
内容に乏しい散文になり、お恥ずかしい限りでありますので、本拙文を閉めさせていただきます。

(東京地区生コンクリート協同組合 専務理事)

	(出荷数量)		(引合、成約、契残)	
	9月(実績)	10月(月初想定)	9月(実績)	
	前年比	前年実績比		前年比
大型	174,336 m³ 91.6%	190,000 m³ 100.3%	引合	162,638 m³ 299.7%
小型	28,358 m³ 95.4%	30,000 m³ 104.4%	成約	134,948 m³ 290.1%
計	202,694 m³ 92.1%	220,000 m³ 100.9%	契残	3,413,574 m³ 83.7%

残コン・戻りコン 削減PRポスターを リニューアル

この度、当協組は残コン・戻りコンの削減に向けたチラシを更新しました。当協組における残コン・戻りコンに起因する産業廃棄物は、年間163千トンと推定され、この運搬に係る車両(片道)のみで2,567トンのCO2が排出されて



います。また、セメントや混和剤・材が構築物になることが出来ず無駄になることは無論のこと、原材料輸送に係る燃料や処理施設の電力費等、多くの資源が浪費されCO2の発生原因にもなっています。

これまででも需要家の皆様に残コン・戻りコンの発生抑制をお願いしてまいりましたが、事態は改善されているとはいえ、難しい状況にあります。

脱炭素社会に向けた様々な取り組みが推進されるなか、建設業及び建設資材製造業が担うべき責務として残コン・戻りコンの削減は重要且つ優先されるべきものと考えます。

今後とも以下の4点の取組みを提案してまいりますので需要家の皆様、デリバリ店には一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 納入工場・デリバリ店との緊密な連絡体制
2. 必要数量の正確な計量と発注数量の徹底管理
3. 打設途中での残必要数量の再確認
4. 最終打設分発注時に必要数量の精査

東京生協ニュース：まど

当協組は、本チラシの配布とともにホームページにも公開しています。また、ポスター版も完成次第、お手元に発送いたしますのでご活用のごお願いいたします。

第14次 出荷調整事業開始

当協組は、2021年9月27日の理事会において2021年10月1日より2023年9月30日まで、第14次出荷調整事業を実施(継続)することを決定しました。

本事業は、協組運営の根幹をなす「ルールに基づく組合員の売り上げ確保」に関して、1995年(平成7年)に「割決の平準化(入口規制管理)」「出荷調整機能の強化(出口規制管理)」の方針決定がなされ、同年10月1日より2年間を実施期間として、第1次出荷調整事業がスタートしました。その後、2年ごとに継続の可否が検討され、都度、継続承認を受け今日に至っています。

わが社のイメージアップ

吉田建材株式会社



当社は1950年に創業し昨年で70年を迎えることが出来ました。その前年には吉田博社長が新社長に就任し、従業員一同あらたな舵取り役のもとで再出発しました。その二ヶ月後創業者である吉田久蔵が他界致しまして、先般護国寺にて三回忌の法要を無事に執り行うことが出来ました。築地本願寺での社葬の際には日頃よりお世話になっております業界関係の皆様や故人と親交の深い大勢の方々に御会葬賜りました事、この場をお借り致しまして改めまして御礼申し上げます。

さて、この70年間地元の江東区を中心に東京の戦後復興から高度成長期を通じて現在に至るまで都市の発展に携わってまいりました。

この数年間では何かと話題の中心となりました東京2020オリンピック・パラリンピックですが、その競技場も区内に10会場ある事から新設や改築に際しましては若洲工場からの出荷により多く携われた事に喜びを感じております。

また、吉建SOC(新砂工場)の土地を利用し残コン・戻りコンの再利用を目的としたリサイクル事業も、おかげを持ちまして今年で7年目を迎える事ができました。現在では、周辺の受入工場数も拡大し需要も多様化した事から需給バランスが保たれ安定した運

用ができる様になり、ひと安心しております。

近年、時代の経過とともに生コンクリートへ求められる品質・生産性・輸送能力はより高水準なものへ変化する中、当社ではそのニーズに沿うべく品質管理体制の強化やアジテータ車の増車、社員・運転手教育の徹底に努めております。

工場の設備におきましては昨年より3期に別けてバッチャプラント2基のSBを交互に進めており、従来に比べて貯蔵ビン等の数も増やした事で、今後ユーザー様の進化し続ける技術に合わせ、多種多様化していく生コンクリートにも対応出来るようになります。

また工場や現場における作業環境の改善を目的として20年以上変えずにいた作業服を一新致しました。これだけの年月が経ちますと作業服も、季節に合わせた快適性能・作業性・重さや収納力に至るまで時代に合わせ大きく進化しております。当社社員を見かけた際には是非着目して頂けますと幸いです。

最後に当社の標語は「人と地球にやさしい、より良い環境づくり」ですが、時代はまさにこれを求めていると感じており、社員一同今後いっそう尽力して参る所存でございます。今後ともよろしくお願いいたします。

2021年度上期 周辺協組出荷実績

	東京		東関東		三多摩		玉川		神奈川		埼中		千葉西		千葉中		千葉北		合計	
	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)	実績 (m³)	前年比 (%)
4月	209,215	125.5	44,347	117.6	57,827	103.3	68,788	143.1	90,255	89.8	117,399	93.3	86,667	143.5	36,185	114.4	31,913	99.0	742,597	112.7
5月	191,984	123.1	32,581	129.6	40,872	87.4	48,868	116.4	86,717	95.7	92,028	78.5	47,222	75.1	31,700	113.2	25,750	84.9	597,720	99.8
6月	233,328	117.5	30,900	114.6	59,494	80.4	60,252	94.3	120,436	102.1	98,620	70.9	69,993	105.2	40,867	129.7	39,974	104.5	753,863	99.6
7月	216,219	105.1	35,287	107.9	50,040	74.6	56,097	86.7	118,655	97.5	98,086	78.8	69,037	99.6	36,387	100.6	30,038	86.5	709,846	93.8
8月	166,747	102.1	30,249	109.8	48,427	84.0	44,516	87.6	98,682	95.3	82,393	88.9	57,743	99.9	41,110	143.0	31,433	94.1	601,302	97.7
9月	202,694	92.1	41,282	128.4	58,469	86.3	44,075	72.3	137,995	112.1	92,778	76.7	53,209	77.8	49,264	155.9	33,302	90.3	713,069	93.6
上期計	1,220,188	109.9	214,645	117.8	315,129	85.3	322,596	97.6	652,740	99.3	581,304	80.7	383,871	99.6	235,514	125.5	192,410	93.5	4,118,397	99.3